

令和7年度（2025年度）学校評価報告書

1 本年度の重点目標

- (1) 社会貢献の意欲を高め、多様性を理解し、カナダ派遣事業やカナダ姉妹校との連携等を中心に異なる価値観を持つ他者と協働できるグローバルシチズン(世界市民:持続可能な社会づくりの主体者)を育成する。
- (2) 鹿追町を舞台とした持続可能な社会づくりの活動等を通して、主体的に探究し、協働し、課題解決に取り組む態度と力を身に付ける。
- (3) 主体的で探究的な学びを通して自己実現を図る人材を育成する。
- (4) 情報モラル教育を充実させ、倫理観をもって ICT を最大限に活用する態度とスキルを身に付ける。
- (5) 基本的生活習慣を確立し、生きる力を育成する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・カナダ短期留学を主とした国際理解教育を推進するとともに、今年度から新たにカナダアルバータ州ストニープレーン町のメモリアルコンポジット高校との3ヶ月交換留学を実施することができた。また、鹿追町を舞台とした地域課題解決型の探究学習について、BRIDGE構築事業を活かして、更に深化することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カナダ派遣事業をはじめとする国際交流活動を通じ、生徒が主体的に学ぶ姿勢が育まれている。また、ICTを活用した学習支援や探究的な学びの取組は、鹿追町の幼小中高一貫教育の方針とも合致しており、継続的な発展を期待する。
改善方策	生徒、保護者、地域との一層の連携を図り、ニーズに応えた教育活動をさらに展開していくとともに、ICTの活用をより充実させながら探究的な学習を進展させ、さらに魅力ある学校づくりに努める。	
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価の振り返りや校内研修を通して、組織的に授業改善の取組を行った。・個別最適な学びと協働的な学びを意識した授業を行う教員が増えた。BRIDGE構築授業の指定を受け、探究的な学びが深化した。 ・達成度 3. 1 取組の適切さ 3. 1 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流の機会をさらに活かし、実践的な英語教育の一層の充実を期待する。 ・鹿追町オンライン公設塾をさらに活用し、生徒の学力が向上していくことを期待する。 ・達成度 3. 3 取組の適切さ 3. 3
改善方策	学習の目的意識を育むため、探究や地域連携を通して学びを自分事化し、主体的に学ぶ態度を育成する。また、知識の活用が十分得られるよう、教科横断的な課題設定や探究的学習を取り入れ、思考力・表現力の育成を図る。	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・道外の生徒が増え、家庭や寮との連携に難しさを感じる。特に寮内で起こった事案について対処する際に、情報の共有方法などに課題を感じた。 ・達成度 3. 3 取組の適切さ 3. 4 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動・いじめに対する組織的な対応と情報共有体制は適切に整備されており、高く評価する。また、丁寧に生徒指導を行っており、生徒の自主性を高め良い学校環境の維持に取り込んでいる。 ・達成度 3. 3 取組の適切さ 3. 4
改善方策	問題行動やいじめ防止に向け、いじめ対策委員会から適切な情報発信を行い、全教職員が一貫した指導ができるよう適宜体制の見直しを図る。また、地域との連携をより強固にし、適切な時宜に適切な指導を行うことができるよう体制を整備する。	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアスタディや進路講話など、キャリア教育に関する取り組みは十分に行えているが、いつどのような方法で指導をするのかわかりづらい部分もあった。 ・インターンシップでは、事前の生徒指導が不十分な面もあった。 ・達成度 3. 2 取組の適切さ 3. 2 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が町内の商工業や老人ホーム等にアルバイトとして働くことにより、鹿追町民との繋がりや接点強化によるコミュニケーション応力の向上等、社会人として必要な資質・能力を身に付けることに繋がっている。 ・コース制の特色を活かした進路指導が着実に行われている。 ・達成度 3. 6 取組の適切さ 3. 2
改善方策	受験方法の多様化が進んでおり、校内マニュアルの改定を図る必要がある。また、生徒に対しては学習能力のみならず、探究活動の成果やプレゼンテーション能力が求められており、三年間の教育課程を通して適切に必要な資質・能力を身に付けさせる必要がある。	
健康・安全指導	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室、薬物乱用防止教室、思春期講演会、SNS安全教室、避難訓練、1日防災学校等を実施しており、年間を通して適宜指導をすることができた。 ・自転車の交通マナーについて、何件か苦情があった。 ・身の回りの整理整頓ができない生徒が増えている。 ・必要に応じて通信を発行して指導した。 ・達成度 3. 3 取組の適切さ 3. 4 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に問題を提起し、生徒会とも協議しながら課題解決に向けて対応していることは評価できる。 ・警察等の外部機関と連携した安全教育や健康教育に全校的に取り組んでおり、評価できる。 ・校舎環境美化について、生徒が主体的に取り組む意識の更なる醸成を期待する。 ・達成度 3. 5 取組の適切さ 3. 1
改善方策	次年度も今年度と同様に必要な指導を適切な時期に、外部機関との連携を図りながら全校的に行っていく。校内美化については、生活委員会、衛生委員会等の生徒会委員会が主体的に活動できるよう指導していく。	
<p>○自己評価の基準 「達成度評価」 4：十分達成できた 3：ほぼ達成できた 2：やや不十分である 1：不十分である 「取組の適切さ」 4：適切である 3：ほぼ適切である 2：やや適切でない 1：適切でない</p> <p>○学校関係者の基準 ※自己評価結果に基づき、学校関係者が評価 「達成状況」 4：適切な評価である 3：ほぼ適切な評価である 2：やや不適切な評価である 1：不適切な評価である 「取組の適切さ」 4：十分な効果が期待できる 3：効果が期待できる 2：あまり効果が期待できない 1：全く効果が期待できず、改善を要す</p>		
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ・Web上の学校公式ホームページに掲載 ・PTA役員会、学校運営協議会等で結果について説明 	